FAR夢

ワイルドNショック SHOCK!

※スタンドは別売

ステイフィクス AN90　パワーボックス 取扱説明書

販売代理店
（直接購入された販売店をご記入ください）

購入年月日　　年　　月　　日

重要：ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読み下さい。

この度はステイフィクスAN90パワーボックスを
お買い上げいただきありがとうございます。
この製品は蓄積されたノウハウにより世界最高水準の
最新技術を提供いたします。

1. 梱包内容

パワーボックス本体
アース用コード（緑）
外部バッテリー用コード（赤・黒）
取扱説明書
保証書

2. 各部の名称

接続方法

内部乾電池使用時

※乾電池は寿命の長いアルカリ乾電池を推奨いたします.

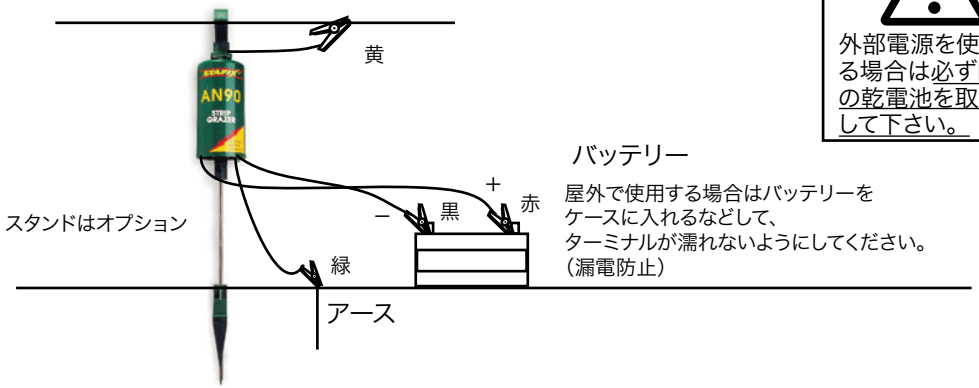
1. 電源をオフにします
2. 本器下部の脱着クリップを2つ同時に押しながら、外部カバーを取り外します。
3. 電池ボックス内に書いてある絵のとおりに乾電池を4本(単1アルカリ電池推奨)セットします。
4. 外部カバーを電池ボックスに戻し、カチッと音が鳴るまで押し込みます。

注意　必ず電池のプラスとマイナスの向きを確認してセットしてください。

電池ボックス内部

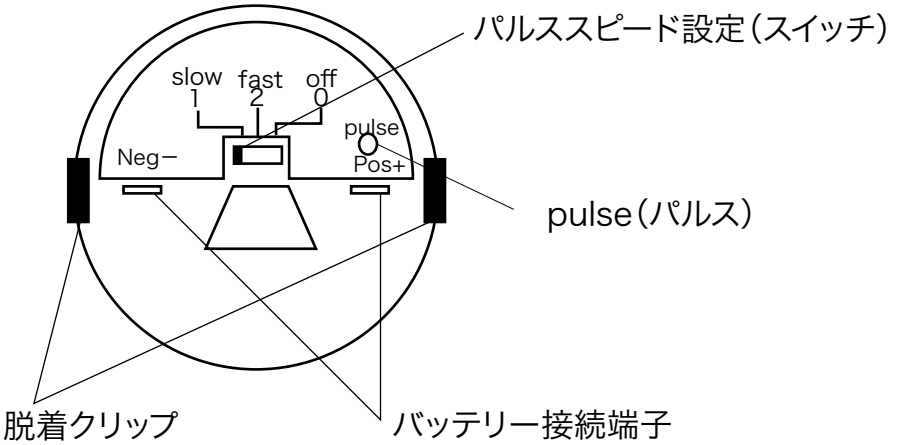
外部電源使用時

1. 12Vのバッテリーを用意して下さい。
2. 電源をオフにします。
3. 付属の外部バッテリーコードをバッテリー接続端子の
   Neg　　部分に黒の線、Pos+部分に赤の線をそれぞれ取り付けてください。
4. 黒の線のクリップを外部バッテリーのマイナスに取り付け、
   赤の線のクリップを外部バッテリーのプラスに取り付けてください。



外部電源を使用する場合は必ず内部の乾電池を取り外して下さい。

屋外で使用する場合はバッテリーを
ケースに入れるなどして、
ターミナルが濡れないようにしてください。
(漏電防止)



■パルススピード設定(スイッチ)
- 1　slow(スロウ)遅いパルス　2秒間隔
- 2　fast(ファースト)速いパルス　1.2秒間隔
- 0　off(オフ)電源オフ

■pulse(パルス)このライトは電気がフェンスに通電するたびに点滅します。

■バッテリー接続端子(AN90に付属の赤+と黒−のコードで接続します。)

3. 電源について(以下の4つの選択ができます)

1. 内部電池　単1アルカリ電池4本使用 6ボルト
2. バッテリー　直流12ボルト
3. ソーラー+バッテリー(直流12V)
4. ACアダプター(直流12V、容量　1000mA以上)

保守管理と取扱のコツ

たとえ故障がなくても、定期的な点検管理を行う必要があり、これが電気牧柵器利用による省力管理の第一歩です。

☆バッテリー定期交換

バッテリー式電気牧柵器の場合、バッテリーの電圧が生命です。

一般に、乗用車に使われている50Ahを使用している場合、2ヶ月（AN90）～4ヶ月（AN45）に一度は、充電されているものと交換する必要があります。カレンダーに印をつけ定期的に交換してください。

バッテリーは、一般的に放電・充電を繰り返すと能力が下がっていきますが、過放電は最も注意する必要があります。

バッテリー液のレベル。比重は定期的に調整して下さい。

☆電柵の電圧チェック

電圧が降下するとショックが低下します。従って脱柵を未然に防ぐために、電柵の電圧を常にチェックする必要があります。1～2日に一度柵の巡回点検をしてください。（地表面の導通具合により点検場所で異なります。）

牛、豚、犬、猫の例 （野生動物の場合、下記の数値プラス500vを目安にしてください）

機種	安全範囲	使用限界	要点検
デジタルボルトメーター	3000v	2500v	2500v未満

製品データ

	AN90
入力	6V/12V
消費電流	15mA/26mA
最大電圧	7500V

故障かなと思ったら！

原因＼状態（点検順序↓）		器械が動かない	ランプ点滅が遅い	ショックが弱い	途中から先のショックが弱い	対策（備考）
電源部	電源コードの差し込み不良	●				
	バッテリーの＋と－接続を逆にしている	●				＋－を逆接続すると、作動しないか、器械に負担がかかり故障の原因となります。
	バッテリーターミナルへの接続が不良	●				一度、接続を外しバッテリーターミナル部分を磨いて下さい。
	バッテリーの電圧が低下している		●			バッテリーは、その容量に応じて、定期的な充電計画をたて、実行して下さい。ソーラーの場合、壊れているかパネルの表面の汚れを点検してください。
	電池切れ	●				乾電池を新品のものと交換して下さい。
アース部	アースが不完全			●		アースをチェックして下さい。乾燥したところ又は雪の上ではショックが十分に出ない事があります。
漏電関係	碍子が不良			●		明らかに破損している場合と、絶縁性能が低下している場合と電柵線が脱線している場合があります。前2つは碍子そのものを取替え、後者はバインド線で固定してください。
	電柵線が草木が触れている			●		刈り取って下さい。 ラジオノイズの最大の原因です。
	電柵線が地面又はアースに触れている			●		
断線	ライブ線が断線				●	ポリワイヤー等のステンレス線が途中で断線していると、その先は電圧がかかりません。不良箇所を新しい線と交換して下さい。
回路	回路内自体の故障	●		●		代理店、又は弊社へ相談して下さい。
	日照り続き			●		地表の電導性が悪くなり、ショックが低下します。

電気牧柵器自体が故障することは、極めてまれです。ですから、もし故障かなと思ったときは、上記の点検順序に従って、簡単な身近なところから点検してください。思わぬところに、よく原因があります。

牧柵器自体の点検は、本体のみの無負荷状態で、試験します。専用テスターを用いて出力をはかり、機種に記載されている範囲の出力（ボルト）が出ていれば正常です。

安全上のご注意

ご使用の前に、この安全上の注意をよくお読みの上、正しくお使いください。
※ここに示した注意事項は表示内容を無視して、誤った使い方をしたときに生じる被害や公害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

警告 この表示は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

禁止　絶対に電子回路の修理・改造はしないで下さい。	禁止　濡れた手で、電源関係の作業は行わないで下さい。
禁止　使用対象は動物のみで、人間に対しては使用してはいけません。	禁止　電柵ワイヤーはとげがないものをご使用ください。
フェンスには必ず「危険」の表示を行ってください	禁止　電気柵は２次的な事故が発生する恐れのある所には設置しないで下さい。
禁止　幼児の手が届く範囲に電気柵関係機材を設置しないで下さい。	禁止　フェンス周囲には、鋭利なものがない様にして下さい。
禁止　川や池など水の溜まっている所で、本器の電気を絶対通電しないで下さい。	禁止　足や物が引っかかるような位置にワイヤーを設置したり放置したりしないで下さい。
禁止　引火物は本器はもちろん、電源スイッチ、フェンスすべてに近づけないで下さい。	禁止　ローソク、蚊取り線香、タバコなどの火気を近づけないで下さい。
禁止　落雷時にはフェンスや本器に近づかないで下さい。	禁止　本器の中には一切余計なものを入れないで下さい。
禁止　体の自由が取れないような、狭い場所では使用しないで下さい。	

注意 この表示は「障害を負う可能性または物的障害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

禁止　電気柵工事で切り捨てたワイヤーなどは放置しないで下さい。	禁止　通電しないときは、フェンスは必ず撤去してください。

☆ラジオノイズ対策

電気牧柵器を長く使用していると、ラジオ・テレビに雑音が出ることがあります。これは電柵線のどこかに、下記の問題点が生じている証拠ですので、原因を明らかにして早急に対処して下さい。

１．牧草や枝が伸びて、電柵線と接触している場合
２．端子及び連結箇所の接続が不完全な場合
３．電柵線が脱線しているか、断線している場合
４．アンテナと電柵線が平行になっている場合
５．電気牧柵器本体が故障している場合（原因では１%以下）

お問い合わせは

ファームエイジ株式会社

北海道石狩郡当別町字金沢166 Tel.(0133)22-3060

フリーダイヤル　エイジで　良い柵を

0120-82-4390

携帯・PHS OK

※携帯・PHSからもご利用になれます